

遠くからご苦労様！

杉浦忠男さん（58才）

愛知県で建築業（自営）



総合福祉センターでの炊き出し
ボランティアへの支援 16日

以前からボランティアをしたいと思っていたが、子育て等生活環境から出来なかった。子どもも成長し身軽になったことから、東日本大震災のボランティアに行こうと決意した。

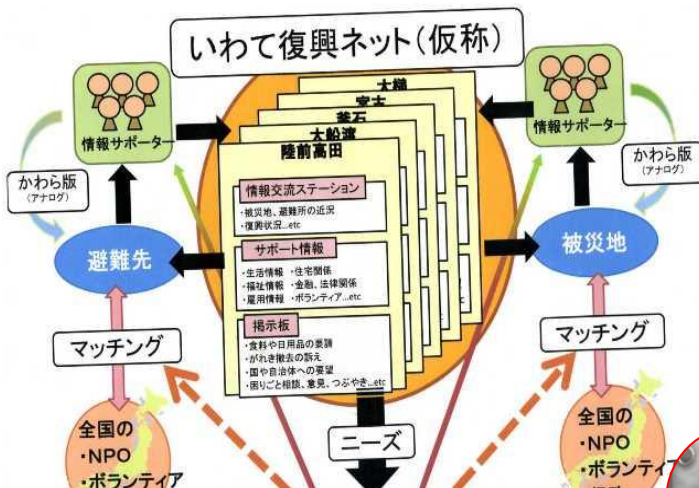
刈谷市社会福祉協議会のボランティア登録もしており、4月10日に出発し、11日から陸前高田市の社協ボランティアとして、自動車に積んできた発電機やチェーンソーを使い、がれきの

撤去や部屋の片づけを行って来た。

16日の午前まで陸前高田市で働き、午後には大船渡市の炊き出しの支援に来た。明日はETC割引を利用して帰る。

5月の連休中は、テント持参してのボランティアが多数来ると思うので、テント宿泊できる場所をつくってほしいと、受け入れ態勢への要望があった。

いわてNPOフォーラム21から「いわて復興ネット」(仮称)の提案



4月16日午後、いわてNPOフォーラムの増子代表理事が気仙に来た。

被災者支援の一つとして「つなぐ」「結ぶ」「発信する」という3つの機能を持つ、「いわて復興ネット」を立ち上げたいので、情報提供等の協力依頼でした。

①散りぢりに暮す被災者にとって、被災地の復興情報など、多様な情報が必要不可欠である。

②どこにアクセスすべきか混乱がみられる。「結ぶ」機能の一元化を図る。

③被災者の訴えや要望を自由に「発信する」ツールとして「掲示板」をつくり、被災者のナマの声を色々の復興策に活かす。

④各避難所に「情報サポーター」をお願いし、ネットで紹介するとともに、情報紙「かわら版」でもお知らせする。

